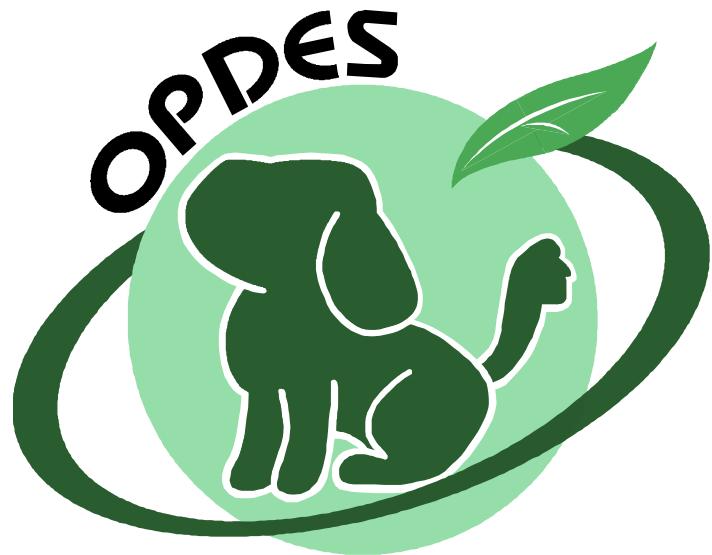


OPDES 犬の社会化認定試験  
(チームテスト)

規定 & 審査表



2026年1月1日 改正

# OPDES 犬の社会化認定試験(チームテスト)

## 全般規程

- 「チーム」とは飼い主と犬を意味します。
- 「犬の飼い主が一緒に暮らすその犬に教育を行うこと」が目的であるこの試験には、OPDES の理念である「命ある全ての犬に教育を」に基づき、血統書のあるなしに関わらず全ての犬が、また、OPDES の会員、非会員に関わらず全ての飼い主が受験出来ます。ただし、未成熟な生後 12 か月未満の犬、妊娠中の犬、病気や怪我をしている犬は受験できません。生年月日がはっきりしない犬はその飼い主が生年月日を決定します。
- チームテストを受験するには、1 年以内に狂犬病ワクチンを接種していなければいけません。
- 試験は、A セクション(オビディエンステスト)と B セクション(実社会でのチームの態度と行動テスト)と、飼い主による筆記テストの 3 部門で構成されています。
- A セクションで 35 点以上を獲得し、B セクションで全て「信頼できる」の評価を得、筆記テストで 70%以上の点数を取得すれば合格となります。不合格となった場合、間隔を開けずに再受験することができます。
- 筆記テストは、審査員による筆記テスト設問に関する講習を行ったのちに実施します。筆記テストに合格したハンドラーは、次回のチームテストからは筆記テストが免除されます。(A セクションと B セクションは受験の都度審査します。)
- 小学生以下のハンドラーが受験する場合は、審査員による講習後に、筆記試験の代わりとして担当の審査員が口頭でいくつかの質問をします。質問に正解することで合格となります。
- チームテストにはレベル 1、レベル 2 という段階があります。それぞれの有効期限は合格日より 1 年間です。チームテストレベル 2(TT2)を受験するには、チームテストレベル 1(TT1)を受験合格し、その有効期限中に限ります。しかし、チームテストレベル 2(TT2)に合格したことがあるチームに関しては、有効期限が切れていてもチームテストレベル 2 から受験することが出来ます。
- 1 日に受験できるのは、1 種目 (TT1、或いは TT2)のみです。
- 発情中の犬も受験することが出来ます。但し、受験の順番が最後になる場合があります。
- 試験会場(駐車場なども含む)において、犬の社会化認定試験に参加する者として相応しくない行動(犬の排便をそのままにしておく、犬に対する体罰、受験犬が他の犬に噛み付く等)を審査員が確認した場合や、試験中の過度なリードの使用は、試験失格になることがあります。また、審査員が試験の続行不可能と判断した場合、その時点で試験は中止され不合格となります。また、試験会場での強制首輪などの使用は禁止です。

## 〈Aセクション〉

- オビディエンステストであるAセクションは、準備されたグランドや芝地で実施します。Aセクションは、2チーム(場合によっては3チーム)のペアで審査をします。
- 50点満点中35点以上(70%以上)で合格となり、Bセクションに進むことが出来ます。  
審査は各課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられます。採点の最少単位は0.5点です。

〈評価に対する点数を以下に記載(10点満点の場合)〉

V=10点

SG=9.0~9.5点

G=8.0~8.5点

B=7.0~7.5点

M=0~6.5点

- 犬に装着したリードを外した場合は、ポケットに入れるか肩に掛けてください。
- 犬に衣服を着せて受験することは認められています。また、〈伏せて待つ〉の課目で敷物を敷き、その上で犬を待たせても構いません。
- 試験会場において、犬に装着された首輪が締まる形状のものである場合、リードは犬の首が締まらないように装着しなければいけません。
- 手には何も持ってはいけません。防寒目的以外の手袋の装着も禁止です。また、モチベーターとなるもの(トリーツやおもちゃなど)を持ってリンクに入ることは出来ません。
- それぞれの課目は基本姿勢(ハンドラーが進行方向に向いて気をつけの姿勢を取り、犬はハンドラーの横でハンドラーと平行に座った状態)から始まり、基本姿勢で終わります。チームは、各課目を始める前に基本姿勢を取った状態で審査員の合図を待ち、審査員の合図により作業を始めてください。
- 〈横について歩く〉課目の『早足』と『ゆっくり』以外、リンク内では常歩(通常の歩くスピード)で移動してください。
- 次に行う課目を審査員に尋ねることや、課目の内容を審査員に指示してもらうように前もって頼むことは問題ありません。
- 基本姿勢と〈横について歩く〉の課目における犬の位置は、ハンドラーの左側でも右側でも構いません。但し、Aセクションの全ての課目で統一されていなければいけません。〈横について歩く〉のUターンに関しては、ハンドラーは犬の居る側にターンしなければいけません。(犬がハンドラーの左側についている場合、ハンドラーは左ターン、犬がハンドラーの右側についている場合、ハンドラーは右ターンです。この時、犬はハンドラーと共にUターンしてもハンドラーの後ろを回ってUターンしても、どちらでも構いません。)
- 1つの課目を終了したら、犬をさわって褒めることができます。
- 犬の各動作はハンドラーの声による指示だけで行われることが理想です。ただし、犬に身体的な障害がある場合(耳が聞こえないなど)に、手による指示などでハンドリングすることは構いません。(事前に審査員に申告してください。)
- 規定に明記されていないことに関しては審査員が判断します。

- 審査終了後には直ちに審査員から各課目の講評がなされ、評価に基づく得点と合否が発表されます。
- 試験中、排便、排尿をした場合は 5 点の減点です。

## 〈Bセクション〉

- 実社会でのチームの態度と行動テストである B セクションは、実際の道路や公共の施設で実施します。
- A セクションを合格したチームのみ、B セクションに進むことが出来ます。
- B セクションでは担当の審査員がいくつかの課題\*から 3 つを選んで審査します。チームの態度と行動により、課題ごとに「信頼できる」または「信頼できない」と評価します。全ての課題で「信頼できる」と評価されると B セクション合格です。
- 一試験において、受験する全てのチームは共通の課題で審査します。

### 【Bセクション 課題\*例( TT 1 , TT 2 共通)】

#### 1. 人との会話中に触られたときの犬の態度と行動

名前を呼ばれたチームは審査員のもとまで行って握手をし、自然な感じで審査員と会話します。このとき犬はリードに繋がれた状態で、ハンドラーの側で立っていても、座っていてもかまいません。

審査員が「触ってもいいですか?」と尋ねてから、犬を触ります(頭をなでる程度)。この時にハンドラーが犬をコントロールしてもかまいません。

もしこの時に、犬が問題のある行動を取ればチームテストは不合格となります。しかし、あらかじめ審査員にその旨を申告し、ハンドラーが犬を十分にコントロールできていって、審査員が問題なく犬に触ることができれば信頼できると評価します。

#### 2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動

試験会場の状況に応じて、道路や人混み、あるいは他の犬のいるところを審査員の指示通りに歩行します。ハンドラーは犬をリードに繋いだ状態で歩きます。この時ハンドラーが犬をコントロールしてもかまいません。

犬が人混みや道路を問題なく歩行できれば信頼できると評価します。

#### 3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動

ハンドラーは審査員の指定した場所に犬を繋ぎます。適当な場所がない場合は、ヘルパーがリードを持ち、ハンドラーは犬から見えない場所に隠れます。この時、ハンドラーは犬に指示を与えておいてもかまいません。犬を連れた見知らぬ人などが、待たされている犬のすぐ側を通過します。

犬は落ち着いた態度でハンドラーを待つことができれば信頼できると評価します。

#### **4. 人が食事中の犬の態度と行動**

ハンドラーは犬を伴ってテーブルに着席します。犬はハンドラーの足元にいて、運ばれてきた食事をハンドラーが食べている間、おとなしく待つことができていれば信頼できると評価します。

#### **5. 動物病院で診察を受ける時の犬の態度と行動**

ハンドラーは犬を診察台に見たてた台の上に乗せます。台の上では犬が立った状態をキープできるようハンドラーがコントロールします。

ハンドラーが犬を十分にコントロールできていて、審査員が問題なく犬に触れることができれば信頼できると評価します。

#### **6. その他**

B セクションの審査にふさわしく、それを利用できる場合(犬と共にエレベーターに乗れる、犬同伴OKのレストランがある等)は、審査員の判断で3つの課題のいずれかに置き換えることができます。

## 【チームテスト レベル 1(TT1)実施要領】 50 点満点(全課目リード付き)

### 1. リードつきで横に付いて歩く 15 点(要領図参照)

リード付きの犬を伴った 2 チーム(1 ペア)がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

受験番号の若いチームが出発点で基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。

(指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時ののみの使用が理想です。群衆では、群衆要員のうちの 1 名の周りを右回りで、もう 1 名の周りを左回りで、8 の字を描く要領で歩きます。)

### 2. 座って待つ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図でハンドラーは犬に座って待つための指示を出し、振り返ることなく 15 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが 15 歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの座って待つための指示で、犬がその場から移動することなく落ち着いた態度で最後までハンドラーに集中して座って待つことが出来れば理想的です。

### 3. 伏せ一呼び寄せ 15 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図でハンドラーは犬に伏せて待つための指示を出し、振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

(犬に装着されたリードは、基本姿勢の前に外してから作業を始めても構いません。リードをつけたままで作業を行う場合は、犬が伏せてから地面に置きます。)

次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの横に来て座ります。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、一呼吸(明確な間)おいて

犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの横に座る場合は、横に座るための指示を使用することが出来ます。

ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せるための指示で犬が自ら伏せ、落ち着いた態度でハンドラーに集中して伏せて待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの横を目指した明確な動作を行うことが出来れば理想的です。

また、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬がハンドラーの元に向かうことが出来ない場合、得点は与えられません。

#### 4. 伏せて待つ 10 点

課目 3(伏せ一呼び寄せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉の課目を行う場所へと向かいます。

受験するペアの受験番号が後のチームは、〈伏せて待つ〉の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、ハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく常歩で 10 歩進み、犬に肩を向けた状態で立ち止まります。

(犬に装着されたリードは、犬が伏せてから地面に置きます。)

次の審査員の合図でハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の横に立ちます。

次の審査員の合図で犬が横に座るための指示を出し、基本姿勢を取ることで作業終了です。

この課目では、ハンドラーが希望すれば準備されたロングリードを犬に装着することができます。(リードを持つことは出来ません)

また、ハンドラーが希望しない場合でも、審査員が必要と判断した場合には、犬にロングリードを装着しなければいけません。

ロングリードを装着してこの課目を行う場合は、ロングリードを付けてから基本姿勢をとり、作業を開始します。

尚、ロングリードを装着して作業を行っても、評価に影響はありません。

休止の際は、

- ①リードを装着した状態
- ②首輪にロングリードを装着した状態
- ③リードの端にロングリードを装着した状態

が、認められます。

ペアのチームが課目 1~3 を終えるまで犬が伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーの伏せるための指示で犬が自ら伏せ、位置を移動することなく落ち着いた態度で最後まで伏せて待つことが出来ていれば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーは犬を見ても構いませんが、追加の指示を与えた場合には評価と点数が下がります。

また、ペアのチームが課目 1 の〈リードつきで横に付いて歩く〉を終えるまでに 3m 以上移動した場合、得点は与えられません。

## 【チームテスト レベル 2(TT2)実施要領】 50 点満点(全課目リードなし)

### 1. リードなしで横に付いて歩く 15 点(要領図参照)

リード付きの犬を伴った 2 チーム(1 ペア)がリンクに入場し、審査員の前に進み出てハンドラーと犬の名前を申告します。

受験番号の若いチームが出発点でリードを外し、基本姿勢をとり、審査員の合図で要領図の様に歩きだします。

犬が自らハンドラーについて歩くことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーのすぐ横で、ハンドラーに集中して歩調を合わせながらついて歩くことが出来れば理想的です。

(指示は、基本姿勢から歩き出す時と歩度の変更時ののみの使用が理想です。群衆では、群衆要員のうちの 1 名の周りを右回りで、もう 1 名の周りを左回りで、8 の字を描く要領で歩きます。)

### 2. 常歩中の座れ 10 点

出発点でハンドラーと犬は基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で犬に座って待つための指示を出します。

この時、ハンドラーは一旦止まって座るための指示を出しても構いません。

その後、ハンドラーは振り返ることなく 15 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

次の審査員の合図で犬のもとへ戻り、基本姿勢を取ります。

ハンドラーが座って待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 15 歩進んで犬と対面するまで犬が座って待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーが座って待つための指示を出した位置に犬が自ら座り、その場から移動することなく落ち着いた態度でハンドラーに集中して待つことが出来れば理想的です。

### 3. 伏せ一呼び寄せ 15 点

この課目は出発点に戻ることなく〈常歩中の座れ〉を終えた地点での基本姿勢から始まります。(場合によっては出発点に戻ります。)

審査員の合図で犬と共に歩き出し、10 歩から 15 歩の間で犬に伏せて待つための指示を

出します。

この時、ハンドラーは一旦止まって伏せて待つための指示を出しても構いません。

その後、ハンドラーは振り返ることなく 30 歩進んで立ち止まり、その場を移動することなく犬と対面します。

次の審査員の合図でハンドラーは犬を呼びます。

呼ばれた犬は、ハンドラーの正面、または直接ハンドラーの横に来て座ります。

犬が前面停座(ハンドラーの正面に座ること)を行った場合は、一呼吸(明確な間)おいて犬に基本姿勢をとるための指示を出さなければいけません。

犬が直接ハンドラーの横に座る場合は、横に座るための指示を使用することが出来ます。

ハンドラーが伏せて待つための指示を出すまで、犬が自らハンドラーについて歩き、ハンドラーが 30 歩進んで犬と対面するまで犬が伏せて待つことが出来ており、その後ハンドラーが犬を呼び寄せることが出来れば、作業が成立したと見なします。

ハンドラーが伏せて待つための指示を出した位置に犬が自ら伏せ、落ち着いた態度でハンドラーに集中して待ち、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬が自らハンドラーの正面、或いはハンドラーの横を目指した明確な動作を行うことが出来れば理想的です。

また、ハンドラーの呼び寄せの指示で犬がハンドラーの元に向かうことが出来ない場合、得点は与えられません。

#### 4. 伏せて待つ 10 点

課目 3(伏せ-呼び寄せ)を終えたチームは、〈伏せて待つ〉 の課目を行う場所へと向かいます。

受験するペアの受験番号が後のチームは、〈伏せて待つ〉 の課目から始まりますので、リンクに入場して審査員への申告を終えたら、この課目を行う場所へと向かいます。

ハンドラーと犬は、ハンドラーが離れる方向に向いて基本姿勢をとります。

審査員の合図で犬に伏せて待つための指示を出し、ハンドラーは振り返ることなく常歩で 20 歩進み、犬に肩を向けた状態で立ち止まります。

次の審査員の合図でハンドラーは犬のもとへ戻り、伏せている犬の横に立ちます。

次の審査員の合図で犬が横に座るための指示を出し、基本姿勢を取ることで作業終了です。

この課目では、ハンドラーが希望すれば犬にロングリードを装着することが出来ます。  
(ロングリードは準備してあります)

また、ハンドラーが希望しない場合でも、審査員が必要と判断した場合には犬にロングリードを装着しなければいけません。

ロングリードを装着してこの課目を行う場合は、ロングリードを付けてから基本姿勢をとり、作業を開始します。

尚、ロングリードを装着して作業を行っても、評価には影響ありません。

ペアのチームが課目 1~3 を終えるまで犬が伏せて待つことが出来ていれば、作業が成立したと見なします。

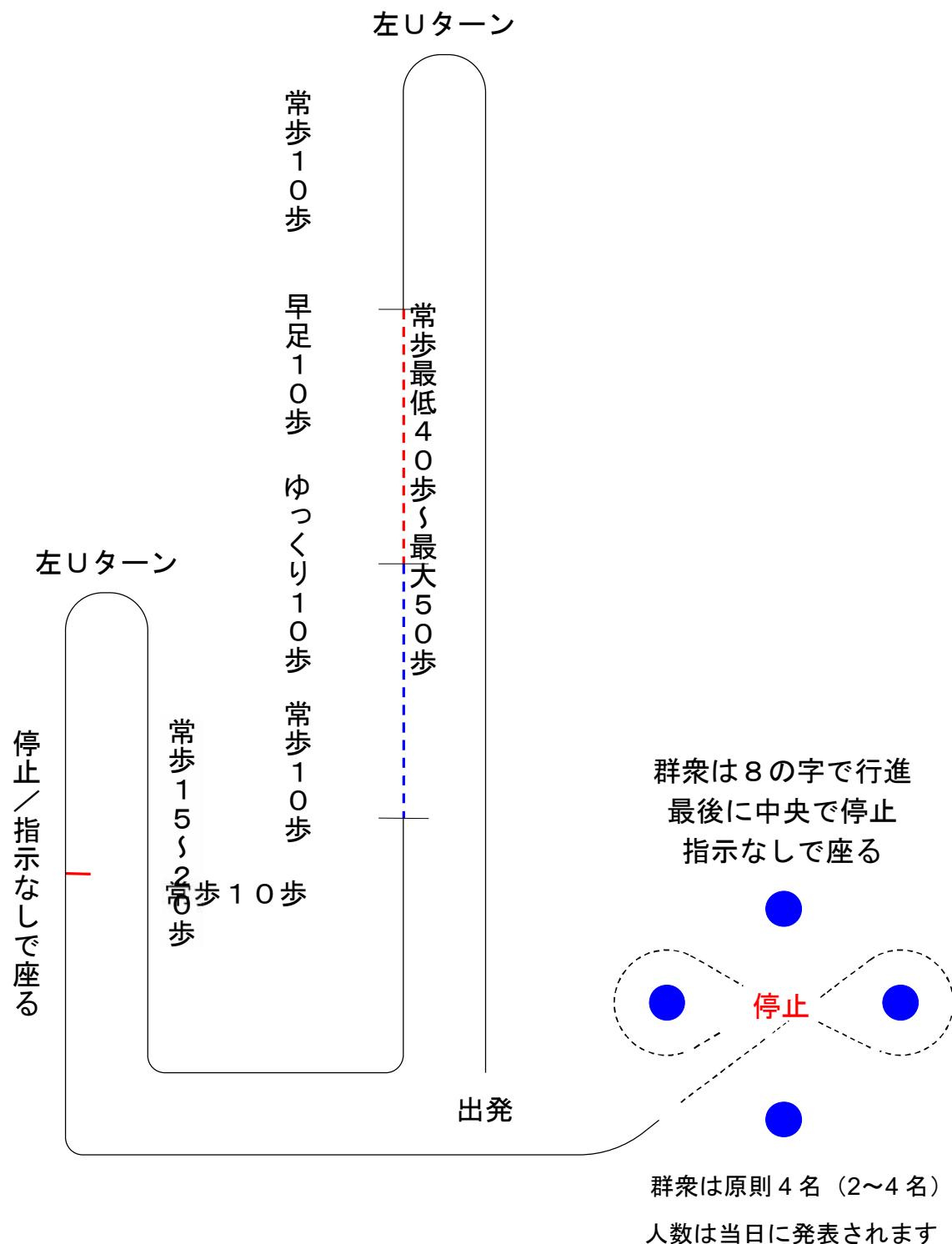
ハンドラーの伏せるための指示で犬が自ら伏せ、位置を移動することなく落ち着いた態度で最後まで伏せて待つことが出来ていれば理想的です。

犬が伏せて待っている間、ハンドラーは犬を見ても構いませんが、追加の指示を与えた場合には評価と点数が下がります。

また、ペアのチームが課目 2 の〈常歩中の座れ〉を終えるまでに 3m 以上移動した場合、得点は与えられません。

## 脚側行進要領図

TT1・TT2 共通



**OPDES 犬の社会化認定試験（チームテスト）受験登録申請書**

開催日：

年      月      日

会場：

	受験クラスに○印をつけて下さい TT1 / TT2 / TT2永久 / 3回目 / 4回目 / ゴールド  申込犬の最新合格日 TT1/TT2      年      月      日 (      点) 受験者名  過去に筆記テストを受験して      合格した / 合格したことがない(受験したことがない)				
	指導手		会員番号		未入会
	住所〒				
犬名			生年月日		
犬種			性別	牡・牝	タトゥ or チップ
セクションA		配点	評価	得点	短評
TT1 紐付きで横について歩く		15			基本姿勢、歩度、方向変換、座れ、群衆内
TT2 紐なしで横について歩く		10			基本姿勢、脚側行進、座れ、待機、
TT1 座って待つ		15			基本姿勢、脚側行進、伏せ、待機、招呼スピード、正面&
TT2 常歩中の座れ		10			脚側
TT1 伏せ-呼び寄せ		15			基本姿勢、脚側行進、伏せ、待機、招呼スピード、正面&
TT2 常歩中の伏せ-呼び寄せ		10			脚側
TT1 伏せて待つ		10			基本姿勢、伏せ、待機、伏せ-座れ
TT2 伏せて待つ		50			
セクションB					
1. 人との会話中その人に触れられたときの態度と行動					信頼できる／信頼できない
2. 人混みや道路を歩行したときの犬の態度と行動					信頼できる／信頼できない
3. 犬が待たされているときに他の人が近寄ってきたときの犬の態度と行動					信頼できる／信頼できない
4. 人が食事中の犬の態度と行動					信頼できる／信頼できない
5. 動物病院で診察を受ける時の犬の態度と行動					信頼できる／信頼できない
6. その他					
総合					信頼できる／信頼できない
合格はAセクションで35点以上で、なおかつBセクションが全て信頼できる場合のみ。 さらに指導手が筆記試験において合格となる点数を取得していること。					
合格 / 不合格 (筆記試験			点) 審査員署名		